

今年が開校20周年

第1回

あぐりキッズスクール

開校式

4月16日(土)

倉吉・三朝クラス 湯梨浜・北栄・琴浦クラス

あぐり生 36人
保護者 30人

J A鳥取中央は、20周年を迎えるあぐりキッズスクールの開校式を湯梨浜町のハワイアロハホールで開き、スクール生とその保護者、J A関係者など約100人が参加しました。

今期も2クラスに分かれて、40人の小学生が入校。これから1年間、合計8回のカリキュラムを通して「農業の楽しさ」や「食の安全・安心」について学びます。開校式終了後には、第2部として「小島よしお特別記念講演」も開き、野菜の歌や踊り、持ちネタのギャグを織り交ぜながら農業と食の大切さを楽しく学びました。

栗原隆政校長(組合長)は「大人になっても、地元の農業に対しての誇りを忘れずにいてほしい」と話しました。

倉吉・三朝クラスに入校したあぐり生は「小島さんは面白いことをみんなの前で堂々としていてすごいと思った。9月の乗馬体験が楽しみ」と笑顔を見せていました。



「食」の大切さを話す
小島さん(右)



ハイポーズ!



楽しいダンスも
披露していただきました!



1年間 お世話になります!



あぐりキッズスクールから就農者が! 清水剛志さん

J A鳥取中央の人気食農体験学習「あぐりキッズスクール」は今年20周年! 卒業生は延べ1,853人。今年、就農した清水剛志さんも卒業生の一人。同スクールに参加したことがきっかけで農業に興味を湧き、4月からブドウ生産者として、日々奮闘しています。

清水さんは2011年の第8期から3年間参加。田植えの他に、野菜・果物の収穫、大阪の市場見学をしました。思い出に残っているカリキュラムを聞くと、イチゴの収穫と稲刈りだそうです。清水さんは実家が農家ですが、スクールに参加するまで農業未経験で家族がどんな仕事をしているか知りませんでした。参加したことで農業をしてみたいという気持ちが生まれ、県立倉吉農業高校、農業大学校と進学しました。

農高では野菜専攻、農大では、果樹コースで梨をメインに栽培技術を習得。家族が栽培するブドウの知識も農大で身に付け、3月に卒業しました。そして4月に祖母、父母と代々続く清水家の4代目として、就農を果たしました。現在は、知識豊富な祖母のアシスタントとして、シャインマスカットとピオーネの栽培に取りかかっています。

清水さんは「農業は話を聞くだけじゃ何が大変なのかわからない。実際にほ場に出て体を動かしてみるのが重要」と話しました。



母の裕美子さんは
剛志さんの就農を喜んで
おられました

就農した
清水剛志さん

清水さん家のブドウのハウス